



キッチン・バス工業会 第13回 「台所・お風呂の川柳」

いい作品は命が長い → 11月2日はキッチン・バスの日

キッチン・バス工業会 川柳事業専門委員会委員長 中山 世一

キッチン・バス工業会の「台所・お風呂の川柳」も今年で13回目、平成29年11月2日に無事表彰式を終えることができました。

今年の応募総数は165,822句で昨年よりは少し多めでした。

これだけの数を集めることができたのもひとえに、後援をいただいている内閣府、経済産業省、国土交通省や関係する業界団体のご協力・ご尽力によるものと深く感謝しております。

嬉しいことに今年には日本コミュニティーガス協会の協賛もいただくことができ、賞を一つ増やすことができました。

このように何年も川柳募集を続けていると自ずから、川柳愛好者の間にも話題が広がり、最近では「台所・お風呂の川柳」も第一生命の「サラリーマン川柳」とまではゆかないまでも川柳の世界一般にひろがってきているように思われます。

毎年のことなのですが、川柳にはそのもって生まれた性格上どうしても時事的な要素が強く出てきます。その端的な例としてその年にはやった言葉の句が多くみうけられます。

今年の募集句に多かった言葉は「付度」「神ってる」「君の名は」「見える化」「学園問題」などでした。しかしこういった言葉は残念ながら長続きしません。すぐに忘れられてしまうのです。ちなみに昨年(平成28年)のはやり言葉を考えてみましょう。どんな言葉がはやったか覚えていませんか？

「EU離脱(いい湯)」「都知事辞職(湯河原)」「熊本地震(くまモン)」「アモーレ(長友選手)」などでした。



第13回 表彰式

それでは「台所・お風呂の川柳」の始まった年(平成17年)にはどんなことがあり、どんな言葉がはやったのでしょうか。

「愛・地球博」「JR福知山線脱線事故」「ディープインパクトの三冠」等々があり、流行語としては「想定外」「クールビズ」「フォー(レイザーラモン)」などがありました。

ところで第1回目のキッチン・バス大賞はどんな作品だったのでしょうか？ 大賞は

「台所 種火のように 祖母がいる 北村」
そして工業会会長賞は次の作品でした。

「心まで 大の字にして 終い風呂 海光」

こうしてみると流行語や時事には直接関係ないようですね。この川柳の内容は13年後の今でも通用します。

そう、いい川柳は(俳句も同じですが)あまりはやり言葉に関係なく、できているのです。おそらく、大賞や準大賞は何年も持ち味が続く作品が選ばれているようです。それでは最後に今回の優秀作品を紹介しましょう。

第13回台所・お風呂の川柳優秀作品

<p>〈キッチン・バス大賞〉 母からの 手紙のような お弁当 井駒</p>	<p>〈準キッチン・バス大賞〉 火を学び 命を学んだ 台所 TO</p>	<p>〈家族の日・家族の週間賞〉 テレビ消し 息子のニュースを 聴く夕げ SR営業</p>	<p>〈暮らしの安全・省エネ賞〉 ガス消した？ 八十路夫婦の 愛言葉 なおママ</p>	<p>〈豊かな住生活賞〉 リフォームに 残す柱の 丈比べ ミノ虫</p>	<p>〈三遊亭金遊賞〉 子が釣った 15センチを 皆で食べ えんびつ</p>	<p>〈山遊亭金太郎賞〉 朝5時の 弁当作りも 今日さいご ルチル</p>	<p>〈神田松鯉賞〉 柔らかい 人になつてる 風呂上がり ツルさん</p>	<p>〈ヘタリリビング賞〉 「もう一度言つて」とコンロに 聞き直し サウナ小僧</p>	<p>〈リビングアメニティ協会賞〉 床暖房 底無し沼より 抜け出せない ガス応援団長</p>
---	--	---	---	--	--	---	---	---	--